

所員活動一覧（二〇一六年四月一日～九月三〇日）

荒木 浩

● 著書

『徒然草への途 中世びとの心とことば』 勉誠出版 二〇一六年六月 四四〇頁

● 論文

「平成二十七年例会シンポジウム「夢記研究の現在」——〈夢と表象〉研究と「夢記」の位置」『仏教文学』四一号 二〇一六年四月 四九～五四頁（査読付き）

「煙たい月と日本文化——その顔の形象をめぐる」*Conference Proceedings Future Perspectives: 25 Years Japanese Studies at Sofia University*, “St Kliment Ohridski”, Boyka Tsigova, Gergana Petkova, Vyara Nikolova 編, Sofia University Press, 二〇一六年四月 二七～三九頁（査読付き）

「『今昔物語集』の宋代序説」李銘敬・小峯和明編『アジア遊学一九七 日本文学のなかの〈中国〉』 勉誠出版 二〇一六年六月 一六～三一頁（招待）

「禪の本としての『方丈記』——『流水抄』と漱石・子規往復書簡から見えること——」天野文雄監修『禪からみた日本中世の社会と文化』ペリカん社 二〇一六年七月 二二～二二九頁

「講演会」二〇一五年六月大会「仏教説話の流れ」…対外観の中の仏教説話と説話集——「諸教要集」をめぐる——『説話文学研究』第五一号 一一～二四頁 二〇一六年八月（査読付き）

● その他の執筆活動

「眠りと夢文化——その歴史性と近代化」睡眠文化研究会編『図録 ねむり展…眠れるものの文化誌』松香堂書店 二〇一六年四月 四四～四五頁

## 石上阿希

### ●論文

「山東京伝艶本・春画目録稿」『文学』一七卷四号 二〇一六年七月 一六九～一八一頁

### ●その他の執筆活動

「インタビュー 表現をめぐる冒険1」『神戸新聞』（夕刊）二〇一六年四月一六日

「対談 おんなのしんぶん 米團治の粹な斬で行きましょう（桂米團治と）」『毎日新聞』（朝刊）二〇一六年五月九日

## 石川 肇

### ●論文

「国定教科書にみる移植民表象——北南米と満洲の連動に着目して」根川幸男・井上章一編『越境と連動の日系移民教育史——複教文化体験の

視座』ミネルヴァ書房 二〇一六年六月二〇日 九一～一〇八頁

### ●その他の執筆活動

「知を拓く——研究最前線27回 国際日本文化研究センター助教 石川 肇さん」『京都新聞』（朝刊）二〇一六年九月一五日

## 磯田道史

### ●その他の執筆活動

「大特集」九州・熊本大地震 大地が割れた——歴史学者・磯田道史さんに聞く——17世紀と酷似 中四国も要警戒」『アエラ』二〇一六年五

月二—九日合併号 二五～二七頁

「書評 石井妙子著『原節子の真実』」毎日新聞（朝刊）二〇一六年五月八日

「書評 海野洋著『食糧も大丈夫也』」毎日新聞（朝刊）二〇一六年七月一〇日

「書評 本村凌二著『競馬の世界史』」毎日新聞（朝刊）二〇一六年九月一日

「古今をちこち」（連載中）読売新聞（朝刊） 二〇一六年四月一三日～九月一四日

# 磯前順一

## ●論文

「卑弥呼の鬼道 天皇祭祀との比較」白石太一郎他編『纏向発見と邪馬台国の全貌』角川文化振興財団 二〇一六年七月 一二八～二八二頁

## ●その他の執筆活動

「メディアア時評」（連載 月一回掲載）『毎日新聞』（東京版・朝刊） 二〇一六年四～七月

「巡礼人生」（連載 月一回掲載）『朝日新聞』（茨城版・朝刊） 二〇一六年四～九月

# 伊東貴之

## ●著書

『明末清初學術思想史再探國際學術研討會 Revisiting Intellectual History of the Ming-Qing Transition 會議論文集』（共著）台湾・中央研究院近代史研究所＋中央研究院歷史語言研究所 二〇一六年六月

## ●論文

「清代考據學再考——以清代《尚書》學為例——」『明末清初學術思想史再探國際學術研討會 Revisiting Intellectual History of the Ming-Qing Transition 會議論文集』台湾・中央研究院近代史研究所＋中央研究院歷史語言研究所 二〇一六年六月 一～一二頁

# 稲賀繁美

## ●論文

「見知らぬ島へ…竹久夢二の夢とあこがれ——竹久夢二学会の旗揚げに寄せて」『あいだ』二二五号（連載一一四） 二〇一六年四月二〇日 一〇～一七頁

「幽霊の蘇生…お化けをいかにしてよみがえらせられるか?」——全球的な知覚から近代性を問い直す…モダニティを振り返って再定義し、デジタル化されたグローバル尺度モデルを修正する(前)」「あいだ」二二六号(連載一一五) 二〇一六年五月二〇日 一八〇二七頁、「後」『あいだ』二二七号(連載一一六) 二〇一六年七月二〇日 一四〇二二頁

「ジャポニスム——その領域と研究史」山根郁信編『別冊太陽——ガレとラリックのジャポニスム』平凡社 二〇一六年七月一〇日 五〇九頁  
「美術史は全球化しうるか?」東浩紀編『ゲンロン3——脱戦後日本美術』株式会社ゲンロン 二〇一六年七月一五日 一六九〇一八六頁

「去勢・不能から瞬時性と輪廻転生、さらには可能世界の濃度計測へ(前)」「あいだ」二二八号(連載一一七) 二〇一六年八月二〇日 二二〇二六頁

#### ●その他の執筆活動

「書評 山下善明著『美とうつくしさ——へあるがまま』についての思索」『図書新聞』三二四九号 二〇一六年四月二日

「私」と「わたし」が出会うとき——あるいは双子の幽霊…輪廻転生説と複数宇宙論から」『国立国際美術館ニュース』二一四号 国立国際美術館 二〇一六年六月一日 二〇三頁

「国際秩序の基本法の設定をめぐる東西理論闘争の幕開け?——「中国伝統の国際関係における〈五倫国際関係論〉という規範理論構築」をめぐる」『図書新聞』三二五九号(連載一六四) 二〇一六年六月一八日

「円卓会議Part 1, Part 2」『第49回SGRAフォーラム 日本研究の新しいパラダイムを求めて』SGRAレポート No. 0074 二〇一六年六月二〇日 五七〇五八、七五〇七六頁

「現代のことは 数値にならない価値の復権」『京都新聞(夕刊)』二〇一六年七月六日

「The Way is in the Passage rather than the Path——『茶の本』はいかにポール・ケイラス訳『道徳経』の「道」を読み替えたか」『図書新聞』三二六二号(連載一六五) 二〇一六年七月九日

「会議での発言」『MAM Documents 002 日本およびアジア地域におけるグローバル・アートとディアスポラ・アート(森美術館、ニューヨーク大学グローバル・アート・エクステンション、東京大学IHSプログラム共催シンポジウム記録集)』森美術館 二〇一六年七月三〇日 一八一〇一八六、二八九〇二九一頁(招待)

「声はどこから到来し、どこに宿り、どこへと舞い発つのか——疑似餌としての標準語・霊媒としての詩語」『図書新聞』三二六六号（連載 一六〇 二〇一六年八月六日）

「書評 林進著『宗達絵画の解釈学——『風神雷神図屏風』の雷神はなぜ白いのか』」『図書新聞』三二六七号 二〇一六年八月一三日

「現代のことは コケモモの実が坂道に」『京都新聞』（夕刊） 二〇一六年八月二三日

「力を抜くこと 一教の稽古のための初歩的な覚え書き」『かみはま合気道』二〇一六年度版 第一八号 三重大学合気道部OB会 二〇一六年八月 四〇七頁

「ゴーギャンとルドンとラフカディオ・ハーンを繋ぐ見えない糸——ダリオ・ガンボーニ来日記念講演会＋シンポジウムでの雑感」『図書新聞』三二七二号 二〇一六年九月二四日

## 井上章一

### ●著書

『関西人の正体』（文庫）朝日新聞出版 二〇一六年七月三〇日 二六三頁

### ●その他の執筆活動

「高山右近」『文藝春秋 SPECIAL』 二〇一六年四月一日

「光の国からきた男」『かまくら春秋』 二〇一六年四月一日

「書評 ファブリツィオ・グラッセリ著『イタリア人が見た日本の「家と街」の不思議』」『週刊ポスト』 二〇一六年四月八日号

「再録 日常の襷を読み解く 多田道太郎さんを悼む」共同通信文化部編『追悼文大全』三省堂 二〇一六年四月八日

「老いのくりごと」甲斐扶佐義編『追憶のほんやら洞』風媒社 二〇一六年四月一九日

「書評 安松みゆき著『ナチス・ドイツと〈帝国〉日本美術』」『日本経済新聞』（夕刊） 二〇一六年四月二一日

「シリーズ刊行告知 日本文化をとらえなおす」『日記で読む日本史』臨川書店 二〇一六年四月

「京都を知る」『朝日新聞』（朝刊） 二〇一六年五月八日

- 「和風の屋根が冠されたビルを、どう見るか」『別冊「環・ウッドファースト!」』二〇一六年五月一〇日
- 「書評 ロバート・ロス著『洋服を着る近代』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一六年五月一九日
- 「ぜいたく仕様を各国首脳に」『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年五月二七日
- 「書評 長山靖生著『奇異譚とユートピア』『週刊ポスト』二〇一六年五月二七日号
- 「講演録 日本古代の古代性へシンポジウム」——『日本に古代はあったのか』をめぐる——加藤謙吉他編『日本古代の地域と交流』臨川書店  
二〇一六年五月三一日
- 「講演録 風俗史から見た現代日本のキリスト教」『国際基督教大学学報3—A アジア文化研究別冊』二〇一六年五月三一日
- 「書評 竹中亨著『明治のワグネル・ブーム』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一六年六月九日
- 「京都と文化庁」『中日新聞』二〇一六年六月一七日
- 「あとがき——身体と建築」根川幸男共編『越境と連動の日系移民史——複教文化体験の視座』ミネルヴァ書房 二〇一六年六月二〇日
- 「書評 西川照子著『金太郎の母を探ねて』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一六年六月三〇日
- 「堕ちる時」NICHIBUNKEN NEWSLETTER No. 93 二〇一六年六月
- 「対談 京都ざらい?の関西案内(井上理津子と)」『みんなのミシマガジン』二〇一六年六月三〇日
- 「鼎談書評(山内昌之、片山杜秀と)」『文藝春秋』二〇一六年七月号
- 「谷崎潤一郎と岩野泡鳴——それぞれの大阪女性像——」『群像』二〇一六年七月号
- 「対談 司馬遼太郎」講演要旨 司馬さん、関東史観せつないです」『産経新聞』(朝刊) 二〇一六年七月一三日
- 「書評 林真理子・内田樹共著『才色兼備』が育つ神戸女学院の教え」『週刊ポスト』二〇一六年七月一五日号
- 「講演録 戦争と近代を都市に読む——ピアノの音色とともに」『遼』六〇号 二〇一六年七月二〇日
- 「書評 高谷知佳著『怪異』の政治社会学」『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一六年七月二一日
- 「京都の歩き方」『日経おとなのOFF』二〇一六年八月号
- 「いまこそ読みたい」『この二冊』『サライ』二〇一六年八月号

「書評 玉木俊明著『歴史の見方』」『日本経済新聞』（夕刊）二〇一六年八月一八日

「京都弁の女たち」『PHP』二〇一六年九月増刊号

「書評 額原澄子著『原爆ドーム』」『日本経済新聞』（夕刊）二〇一六年九月八日

「大阪まみれ（連載二四回）『産経新聞』（夕刊）二〇一六年四月四日～九月二六日

「書評 山際康之著『兵隊になった沢村栄治』」『週刊ポスト』二〇一六年九月三〇日号

## 牛村 圭

### ●論文

「歴史に向きあい、語り合うために——歴史修正主義を考える」『琅』三〇号 二〇一六年四月 一～一四頁

「近代オリビック一二〇年」『学際』第二号 二〇一六年九月 一四～二四頁

## 榎本 渉

### ●その他の執筆活動

「書評 手島崇裕著『平安時代の対外関係と仏教』」『ヒストリア』二五六号 二〇一六年六月 六〇～六九頁

「新刊の情報と紹介 桑野栄治著『李成桂——天翔る海東の龍（世界史リブレット人37）』」『歴史と地理』六九七号 二〇一六年九月 四七～五〇頁

## 大塚英志

### ●著書

『二階の住人とその時代 転形期のサブカルチャー私史』講談社 二〇一六年四月 四九三頁

『TOBIO Critiques #2』（編著）太田出版 二〇一六年五月 一九六頁

●その他の執筆活動

- 「クウデタア2」(西川聖蘭と共著)『ComicWalker・大塚英志漫画』二〇一六年四〜七月
- 「恋する民俗学者」(中島千晴と共著)『ComicWalker』二〇一六年四〜九月
- 「現代のことば」『京都新聞』(夕刊)二〇一六年四月一日
- 「現代のことば」『京都新聞』(夕刊)二〇一六年五月三十一日
- 「まんがでわかる まんがの歴史」(ひらりと共著)『ヤングエース』二〇一六年五月号〜九月号
- 「書評 井出幸男著『宮本常一と土佐源氏の真実』」『週刊ポスト』二〇一六年五月二十七日号
- 「【第6回】角川歴彦とメディアミックスの時代」『最前線』二〇一六年五月三〇日
- 「【第7回】角川歴彦とメディアミックスの時代」『最前線』二〇一六年六月八日
- 「妖怪学批判」『怪』Vol.0048 二〇一六年七月 二七〇〜二八三頁
- 「レイヤーの美学」『EYESCREAM 2016年10月号増刊「新海誠、その作品と人。」』二〇一六年八月 二八〜二九頁
- 「物語労働論 web上の「新しい労働問題」をめぐって」『早稲田文学』2016年秋号 二〇一六年九月 一九〜二九頁
- 「クウデタア2」(西川聖蘭と共著)『早稲田文学』2016年秋号 二〇一六年九月 一一七〜一六五頁
- 「クウデタア2」について」『早稲田文学』2016年秋号 二〇一六年九月 一六六〜一七〇頁
- 「書評 草森紳一著『絶対の宣伝 ナチス・プロパガンダ3 煽動の方法』」『週刊ポスト』二〇一六年九月三〇日号

郭 南燕

●著書

- 『世界の日本研究 2015:「日本研究」を通じて人文科学を考える』(白石恵と共編) 国際日本文化研究センター 二〇一六年五月 二四八頁



## 北浦寛之

## ● 著書

『戦後映画の産業空間—資本・娯楽・興行』（谷川建司他と共著）森話社 二〇一六年七月 三五二頁

## ● その他の執筆活動

「ハンセン病経験者の映画体験——映画を観ることと正すこと」『日本映画学会第5回例会プロシーディングス』二〇一六年九月

## 楠 綾子

## ● 論文

“Consensus Building on Use of Military Bases in Mainland Japan: US-Japan Relations in the 1950s,” *The Japanese Journal of American Studies*, No. 27 (2016), pp. 145–165. (査読付き)

「大西洋憲章からポツダム宣言まで」筒井清忠編『昭和史講義2——専門研究者が見る戦争への道』ちくま新書 二〇一六年七月 二八七～三〇四頁

「芦田均——対米協調論者の「国際貢献」論 増田弘編著『戦後日本首相の外交思想——吉田茂から小泉純一郎まで』ミネルヴァ書房 二〇一六年九月 五一～七八頁

## 倉本一宏

## ● 著書

『日記で読む日本史11 平安時代の国司の赴任』（監修、森公章著）臨川書店 二〇一六年四月 二一六頁

『日記で読む日本史19 「日記」と「随筆」』（監修、鈴木貞美著）臨川書店 二〇一六年四月 二九六頁

『現代語訳 小右記2 道長政権の成立』吉川弘文館 二〇一六年五月 三四八頁

『日本古代の地域と交流』（編、共著）臨川書店 二〇一六年五月 二八八頁

『日記で読む日本史1 日本人にとって日記とは何か』(編著) 臨川書店 二〇一六年七月 二七六頁

● 論文

「日記が語る古代史」 倉本一宏編『日記で読む日本史1 日本人にとって日記とは何か』臨川書店 二〇一六年七月 一一〜四三頁

● その他の執筆活動

「監修者のことば」『日記で読む日本史』臨川書店 二〇一六年四月

「つれづれ彩時記1 蘇我氏について」『朝日新聞』(夕刊) 二〇一六年四月

「はじめに」『日本古代の地域と交流』臨川書店 二〇一六年五月 五〜九頁

「おわりに」に代えて——日文研と歴史学会『日本古代の地域と交流』臨川書店 二〇一六年五月 二七九〜二八三頁

「つれづれ彩時記2 古記録と平安貴族社会」『朝日新聞』(夕刊) 二〇一六年五月

「つれづれ彩時記3 前近代日本史と戦争」『朝日新聞』(夕刊) 二〇一六年六月

「新刊の情報と紹介 丸山裕美子著『清少納言と紫式部』」『歴史と地理 日本史の研究』二五三 二〇一六年六月 四三〜四六頁

フレデリック・クレインズ

● 論文

「徳川家康の外交——外国の史料に見る家康像」笠谷和比古編『徳川家康 その政治と文化・芸能』宮帯出版 二〇一六年六月 一三二〜一四七頁

小松和彦

● 著書

『別冊宝島二四六三号 京都魔界図絵』(監修) 宝島社 二〇一六年五月 一一頁

『青森ねぶた誌 増補版』(宮田登と共同監修) 青森市 二〇一六年八月一日 四三六頁

## ●その他の執筆活動

「言葉の遠近法」(連載六回)『公明新聞』二〇一六年四月二〇日～九月七日

「怨霊都市・京都の鬼と天狗」『別冊宝島二四六三号 京都魔界図絵』二〇一六年五月

「わたしは福の神?」『桑餘』一八号 二〇一六年六月

「編集委員インタビュー 大学に「文系」は必要ですか?」『神戸新聞』(朝刊) 二〇一六年六月五日

「アニミズムと絵解きが妖怪文化を生み出した」『水の文化』五三号 二〇一六年六月

「対談 妖怪たちのいるところ―水木しげる以降の文化のゆくえ(京極夏彦と)」『ユリイカ』七月号 二〇一六年七月

「妖怪は、います 妖怪と日本人の心」『母の友』八月号 二〇一六年八月

## 佐野真由子

## ●著書

『幕末外交儀礼の研究——欧米外交官たちの將軍拜謁』思文閣出版 二〇一六年七月

## ●論文

「幕末の遣外使節日記——淵辺徳蔵『欧行日記』、柴田剛中『仏英行』に見る日本人の開国」倉本一宏編『日記で読む日本史1 日本人にとって

日記とは何か』臨川書店 二〇一六年七月 九七～一二七頁

## ●その他の執筆活動

“Diplomatic Ceremonial in the last decade of Tokugawa shogunate (1857–1867): Japan's first step into the international society,” *Joint East Asian Studies Conference 2016 - Book of Abstracts*, London: SOAS, University of London, September 2016, p. 96.

## 瀧井一博

## ●著書

『渡邊洪基』ミネルヴァ書房 二〇一六年八月 三七六頁

(共編) *Staatsverständnis in Japan: Ideen und Wirklichkeiten des japanischen Staates in der Moderne*, Michael Wachutka/Kazuniro Takii (Hrsg.), Nomos, August 2016, 204 pages.

●論文

「日本憲法史における伊藤博文の遺産」駒村圭吾・待鳥聡史編『憲法改正』の比較政治学』弘文堂 二〇一六年六月 四〇九～四四〇頁

●その他の執筆活動

「政治学の古典を読む(一五) 覇道としての文明(イエーリング著、村上淳一訳『権利のための闘争』岩波文庫 一九八二年)」『究』第六二号 ミネルヴァ書房 二〇一六年五月号 四四～四五頁

「シーボルト賞授賞式に参列して」NICHIBUNKEN NEWSLETTER No.93 二〇一六年六月 一～三頁

「政治学の古典を読む(一六)「国家学者」吉野作造(吉野作造著、岡義武編『吉野作造評論集』岩波文庫 一九七五年)」『究』第六五号 ミネルヴァ書房 二〇一六年八月号 四四～四五頁

「明治憲法の流れくむ現行憲法」『週刊エコノミスト』毎日新聞社 二〇一六年八月三〇日号 八四～八五頁

坪井秀人

●論文

「柵の中で——日系人強制収容所の中の書記空間」『unCture』第七号 名古屋大学「アジアの中の日本文化」研究センター 二〇一六年四月 七六～八六頁

「二十世紀日本語詩を思い出す」『現代詩手帖』思潮社(連載中) 第五九卷四号(連載第一二) 二〇一六年四月 一三二～一三八頁、第五九卷五号(連載第一三) 二〇一六年五月 一四八～一五六頁、第五九卷六号(連載第一四) 二〇一六年六月 一五〇～一五七頁、第五九卷七号(連載第一五) 二〇一六年七月 一八二～一八九頁、第五九卷八号(連載第一六) 二〇一六年八月 一九四～二〇三頁、第五九卷九号(連載第一七) 二〇一六年九月 一五〇～一五七頁

「子午線 死者論言説と戦後八十年」『日本文学』日本文学協会 第六五巻第八号 二〇一六年八月 七四〜七六頁

「戦後空間を生きるのびる〈変態〉——阿部定と熊沢天皇」竹内瑞穂＋「メタモ研究会」編『〈変態〉二十面相 もうひとつの近代日本精神史』六花出版 二〇一六年九月 一七二〜一八五頁

●その他の執筆活動

「あとがきに代えて メタモ（変態）とは何ぞや」竹内瑞穂＋「メタモ研究会」編『〈変態〉二十面相 もうひとつの近代日本精神史』六花出版 二〇一六年九月 一九〇〜一九二頁

パトリシア・フィスター

●論文

“Creating Art in Japan’s Imperial Buddhist Convents: Devotional Practice and Cultural Pastime,” *Women, Gender and Art in Asia, c. 1500–1900*, London: Routledge, July 2016, pp. 147–171.

ジョン・ブリン

●著書

『変容する聖地 伊勢』（編著）思文閣出版 二〇一六年六月 三四〇頁

●論文

“Amaterasu’s progress: the Ise shrines and the public sphere of postwar Japan,” *Japan Society Proceedings No. 152*, 2016, pp. 40–58.

「天皇の外交と国際認識——1868〜94年」小風秀雅編『大学の日本史——教養から考える歴史へ 4 近代』山川出版社 二〇一六年四月 四八〜五八頁

「戦後の伊勢—ブリント・メディアにみる神宮と式年遷宮—」『変容する聖地 伊勢』思文閣出版 二〇一六年六月 二七六〜二九五頁

●その他の執筆活動

- 「序章 伊勢神宮―変容の歴史―」「あとがき」「変容する聖地 伊勢」思文閣出版 二〇一六年六月 三〇一五頁、三一八〇三二二頁
- 「対談 伊勢神宮と国家儀礼―その歴史と政治をめぐって（島蘭進と）」「世界」八八三号 二〇一六年六月 一九七〇二〇六頁
- 「世界の中の神道研究」「鴨東通信」一〇二号 二〇一六年七月 一二〇一三三頁
- 「知らなかった聖地のルーツ」「一個人」七月号 二〇一六年七月 四六〇四九頁
- 「Japan Review 三〇号をむかえて（その二）」「日文研」五七号 二〇一六年九月 五八〇六〇頁

## 古川綾子

### ●その他の執筆活動

- 「現代の言葉 まあぼちぼちに」「京都新聞」（夕刊） 二〇一六年七月一五日

## 細川周平

### ●論文

- 「戦前日本の採式文化―異国情趣与中国趣味」「日語学習と研究 *Journal of Japanese Language Study and Research*」中国日語教学研究会会刊、中国外語類核心期刊 二〇一六年三月号 七〇一三頁
- 「文化使節と同胞慰問―ブラジルの藤原義江一人二役」根川幸男・井上章一編『越境と連動の日系移民教育史―複数文化体験の視座』ミネルヴァ書房 二〇一六年六月 一七一〇一八八頁
- その他の執筆活動

- 「最先端の現場 総研大発3」「神奈川新聞」 二〇一六年七月八日
- 「この三冊 ブラジル」「毎日新聞」（朝刊） 二〇一六年七月二四日

## 松田利彦

## ●論文

「하타치취업차별사건」 이후 제일 한국인의 권리쟁취운동 「日立就職差別事件」以後の在日韓国人の権利獲得運動」 청암대학교 재일코리안 연구소編 『재일코리안운동과 저항적 정체성』 『在日コリアン運動と抵抗的アイデンティティ』 図書出版ソニン 二〇一六年七月 三八三～四〇一頁

## ●その他の執筆活動

『書評 辛珠柏編』韓国近現代人文学の制度化…一九一〇～一九五九年』 (신주백 편 『한국 근현대 인문학의 제도화 : 1910-1959』 해안, 二〇一四年) 『日本研究』 第五三集 二〇一六年六月 二八九～二九三頁

## 山田奨治

## ●著書

『日本の著作権はなぜもっと厳しくなるのか』 人文書院 二〇一六年四月 二〇二頁

『大衆文化とナショナリズム』 (朴順愛・谷川建司と共編) 森話社 二〇一六年五月 三三九頁

## ●論文

『特別リポート 21世紀の文化と著作権』 『ブリタニカ国際年鑑2016』ブリタニカ・ジャパン株式会社 二〇一六年四月 一三二～一三三頁

『まえがき——大衆文化とナショナリズムの深い関係』 朴順愛他編 『大衆文化とナショナリズム』 森話社 二〇一六年五月 七～一一頁

『メディア・コンテンツと著作権』 岡本健・遠藤英樹編 『メディア・コンテンツ論』 ナカニシヤ出版 二〇一六年六月 三五～六三頁

『海賊版』の可能性——オープンアクセスの創造力』 佐藤卓己編 『岩波講座 現代 第9巻 デジタル情報社会の未来』 岩波書店 二〇一六年六月 一三一～一五二頁

## ●その他の執筆活動

『誰のため？ 何のため？ 著作権法改正へ 1 どう決める文化の法』 『京都新聞』 (朝刊) 二〇一六年四月四日

- 「誰のため? 何のため? 著作権法改正へ」『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年四月一八日
- 「誰のため? 何のため? 著作権法改正へ」『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年四月二五日
- 「誰のため? 何のため? 著作権法改正へ」『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年五月二日
- 「誰のため? 何のため? 著作権法改正へ」『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年五月九日
- 「誰のため? 何のため? 著作権法改正へ」『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年五月一六日
- 「誰のため? 何のため? 著作権法改正へ」『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年五月二三日
- 「誰のため? 何のため? 著作権法改正へ」『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年五月三〇日
- 「誰のため? 何のため? 著作権法改正へ」『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年六月六日
- 「誰のため? 何のため? 著作権法改正へ」『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年六月二〇日
- 「誰のため? 何のため? 著作権法改正へ」『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年六月二七日
- 「誰のため? 何のため? 著作権法改正へ」『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年七月四日
- 「書評 ニッシン・K・オトマツギン著『リージョン化された文化——アジアにおける日本発ポピュラー・カルチャーの政治経済学』」『日本研究』第五三集 二〇一六年六月 二八三〜二八五頁
- 「『東京ブギウギ』作詞は大拙の息子」『北國文華』第六九号 二〇一六年九月 五九〜七〇頁
- 「コメント サザエさんをさがして 敗戦からの「復興ソング」」『朝日新聞 Be』二〇一六年九月一〇日

## 劉 建輝

### ● 論文

「戦前期対中留学生支援事業の一考察——日華学会主事高橋君平の活動を中心に」東アジア比較文化国際会議日本支部編『東アジア比較文化研究』一五号 二〇一六年六月 二九〜三七頁